



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
発行責任者 中川喜久子
2023年5月30日

全教北九州

検索

春闘交渉・定期大会 特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

物価高騰に見合う賃金を！「働き方改革」即時実行を！

実現には遠い「労働の代償としての賃金」

23春闘交渉

5月19日(金) 23年度春闘交渉を行いました。教育委員会から田島教育長ほか5名、全教北九州市教職員組合から執行委員長ほか4名が参加しました。今回は短時間の交渉でしたが、全教北九州からは、現場の実態を交えながら、待遇・権利、働き方などの教職員に身近な要求を求め、意見を交換しました。

特物価高騰に見合う賃金、公正な待遇、長時間労働の解消を

歴史的な物価高騰の中、置き去りにされている教職員の賃金の改善を強く求めました。加えて会計年度任用職員や臨時・非常勤の職員などの「同一労働、同一賃金」の原則に沿って、公正な待遇を確保するよう要求しました。

また、先に文科省や全教が公表した勤務実態調査結果でも明らかになったように、教員の長時間過密労働は改善されず、病気休職者も高止まりしたままです。一向に進まない「働き方改革」を本気で実行し、長時間労働を解消するよう要求しました。

事務補助員削減をやめよ、校納金の公会計化を

学校事務職員からは、事務補助員が剥がされたため担うべき業務が多くなり、長時間勤務に拍車がかかっていること、長時間勤務により健康を害する事務職員も増えている実態を伝えました。また事務補助員の産休・育休の代替の配置、多くの政令市で実施されている「給食費などの公会計化」実現

も強く求めました。

休憩を与えない管理職に指導を、業務削減などの改善を早急に

自由に使えるはずの休憩時間が、授業時間や給食指導の時間と重なっている実態がまだ散見されます。昨年度の交渉で全教北九州は、このような実態は労働基準法に違反しており、直ちに改善するよう要求し、一定の改善がありました

が、まだ校務支援システムの休憩時間を初期設定のまま放置している学校があることを伝え、休憩付与義務を守らない管理職を指導するよう要求しました。

また、「在校時間の上限45時間」を超える働き方をしている教員が多いのは、業務の削減などが進んでいないためであると指摘し、早急に対策をとるよう要求しました。

これ以外にも、男性の育児休暇取得促進など育児・介護休暇の充実、教員免許更新制廃止にかわって新しく導入される新たな研修制度(いわゆる「新たな教師の学びの姿」)についても意見交換をしました。

学んで活用、わたしの権利

全教北九州の権利パンフ「あなたをマモルン」

全教北九州は、毎年新規採用教職員のみならず、私たちが権利を一通りにした権利ハンドブック「あなたをマモルン」を配布しています。掲載されている権利は、私たちが健康で安心して働く環境を実現するために、先輩教職員が勝ち取ってきた権利です。病気になったとき、結婚、育児、介護など、その時々私たちに助ける権利を精選してわかりやすくまとめ

北九州の戦争遺跡

小倉衛戍監獄

(小倉北区)

日本の陸海軍の刑務所は、軍人・軍属と軍が所管する学校の生徒、学生で懲役・禁固・拘留に処せられた者を収容するほか、未決の被告人と死刑囚も収容し、現在の拘留所の機能も有していました。

「小倉衛戍(えいじゅ)監獄」は憲兵屯所設置の翌年、1882年に屯所の隣に開設しました。

98年に第12師団が設置されると、監獄長は師団長に隷属することとなり、同師団の受刑者等を収容することになります。1902年には、中国・四国・九州と台湾の受刑者等を収容するようになりました。収容者が増加したため、1922年城野に新築移転し、翌年「小倉衛戍刑務所」と改名しました。

跡地は東隣の偕行社跡地とあわせて小倉市に売却され、小倉市は

一帯に市役所等の公共施設を整備しました。監獄跡地には、市立職業紹介所が設置されました。現在は「リバーウォーク北九州」の一部となっています。

つながりが職場を変える大きな力

5月13日 全教北九州市教職員組合 第16回定期大会

5月13日(土)全教北九州市教職員組合第16回定期大会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の5類移行後ということもあり、組合員の過半数が参加する元気な大会となりました。参加者からは、職場の問題、職場での頑張りが語られました。発言の一部を紹介します。

平和を守る―「子どもたちに、伝えられることを伝えたい」

職場に「平和部」がつくられた。節目のお話や、語り部をお呼びしての学習、平和集会などを企画している。昨年は沖縄本土復帰50周年だったので、沖縄の伝統芸能「エイサー」を通して沖縄の文化に触れさせた。

平和が脅かされている今、自分なりに「子どもたちに、伝えられることを伝えたい」

自分らしい教育を、自由な教育環境でのびのびと実践したい

教員採用試験の面接で、毎年「いじめ、保護者対応、学級崩壊の対処」などが質問されている。教育現場で必要とされる資質ということだろう。採用された後は授業実践をしっかりとやる一方、多忙な毎日「きつい」と漏らしている。自分もそうだがゆとりある教育環境でのびのびと実践出来たらいいのと思う。周囲の先生方とのつながりを大切にしたい

新学期の職員会では、質問や

意見も言えず、ばたばたと進み決まっていくな。周りの先生と話す時間がなくきつい毎日。そんな時間のように悩みをもつ先生を「先生の学校開校式」に誘ってみたところ、快く参加してくれた。周囲の先生方とつながることが、職場を変える大きな力となる。

事務室から事務補助員がいなくなり、多忙に拍車

これまで校納金や就学援助などの仕事を担当していた事務補助員が減らされている。減らされた学校では、学校事務職員にその仕事を押し付けられ二人分の仕事をさせられている。さらに、管理職が担っていた仕事まで事務職員に降りてきて負担が増えている。

市教委は、業務の見直し・改善をしないまま一方的に事務補助員を減らしたため、益々多忙になった。4月に120時間の残業をしたという話も聞く。みんな遅くまで残業したり、休日出勤したりして何とか仕事を消化している。また、事務補助員

がいる学校でも、産育休中の代替がこない等の問題がある。事務室も本当に人が足りていない。1人配置の職員にも声をかけていこう。

特支の教員が足りない！教師の負担増は、子どもたちに！

教員数が減らされ、子ども一人に対する負担が増大。人を増やすよう要求しても管理職は、我慢してくれの一点張り。教職員の働く環境の改善は、子どもたちの教育条件の充実につながるが、今の教育委員会のやり方は働き方改革に逆行するだけでなく、子どもの発達にも責任を持つていない。

特支では教科指導の充実というところで、知的障害の子どもたちにも社会や理科の授業を行っている。しかし、共通カリキュラムがなく、授業づくりが負担になっている。共通カリキュラムが必要だ。

教育DXって何をやるの

「タブレットを文房具のように、普段使いできるように」ということで教育DXが推進されようとしている。一方、DX推進を担う先生は、「出張が増えた」「端末の整備、ソフトの更新作業が負担」など、仕事量がこれまで以上に増え不満を抱えている。また未充電や端末の不備などで授業が中断し、ストレスを感じる先生も多い。教育DXが本当に教師や子どもたちのためになるのか疑問。

自民党の政策提言に現場から不信の声 どうする？ 実態にあわない給特法

教員の働き方改革や処遇改善を巡り、自民党の「令和の教育人材確保に関する特命委員会」は5月10日の会合で、政府に対する政策提言「令和の教育人材確保実現プラン」を取りまとめた。教員の長時間勤務について「将来的には月20時間程度を目指す」として学校現場のマンパワーの抜本的な拡充を掲げるとともに、「教師は高度な専門性と裁量性を有する専門職」として給特法の教職調整額を

現行の4%から「少なくとも10%以上に増額」することを打ち出しました。

このニュースを聞いて「こんなことではごまかされない」「具体策が実現するのかわるか信頼が持てない」など、職場からの声が届きました。

今の「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法(給特法)」が実態に合っていないことはもはや周知の事実、どうする「給特法」。

教員の声を届ける

5月1日「第94回北九州統一メーデー」



晴天の下、開催されたメーデー

たちが8時間労働制を訴えたのが始まりです。12、14時間労働が当たり前だった当時、労働状況の改善を求めて35万人の労働者が結集し、大規模なストライキを実施しました。

8時間は仕事のために8時間は休息のために8時間は自分のためにこのような運動があつて、現在の8時間労働制が成立します

が現在、その原則は崩れ去っています。

今一度、働くもの一人として、仕事は8時間、睡眠と休憩で8時間、残りは自分と家族のためにという1日を実行していきましょう！

5月1日(月)「第94回北九州統一メーデー」が開催されました。平日にもかかわらず600人以上が参加しました。最初のメーデーは1886年5月1日、米シカゴの労働者